

北御堂さんで芸術祭

一般財団法人 大阪市コミュニティ協会

■活動内容

①イベント全体のコアとなる仮設型美術館の設営と運営

―「トキメキ☆美術館」と命名した屋内展示の設営と運営。および「船場ドラゴン」と命名したシンボリックなアート作品の屋内展示。(2026年3月/全会期7日間)

②アート活動との親和性を考慮したマルシェの展開

―全会期7日間で、3日間のマルシェ会期として実施・運営。

―北御堂正面階段をアートシーンと融合させ、かつ、朝鮮通信使に捧げる韓流の舞など、特別プログラムも開催した。

③若者参加の仕組みづくりとシンポジウム開催による共感者づくり

―若者参加の仕組みづくり

近隣の専門学校、大阪デザイナー・アカデミーの協力を得て、まち歩きで大阪と親しみ、その学びからまちを描き、描いた作品を「トキメキ☆美術館」に展示してもらい、さらにその作品を「絵ハガキ」に仕立て、会期中プレゼントする試み。(2025年5月/まち歩き実施)

―シンポジウム開催による共感者づくり

本芸術祭のコンセプトをお披露目できるシンポジウム内容とし、会場も(「トキメキ☆美術館」となるその場所)北御堂2階ホールを使用した。成果として、シンポジウム・オーディエンスから多数の参加協力を得ることができた。

(2025年9月/シンポジウム開催)

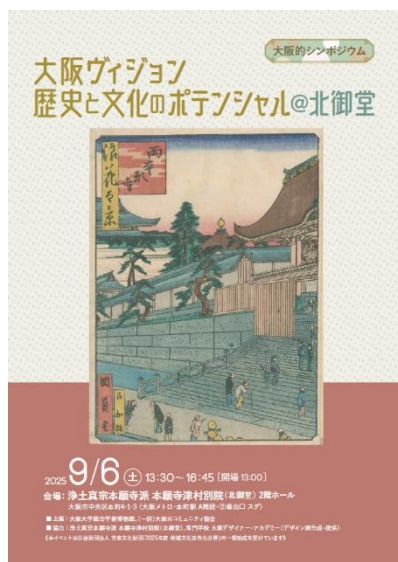
■コンセプト・ねらい

◎戦後の高度成長期を頂点に、大阪最都心域・船場は商いやビジネス中心のまちに特化してゆき、人の暮らしは郊外へ、街中はビジネスセンターにと極めて明確な変化を遂げてきた。ところが、産業構造が変調し、土地利用のニーズが劇的に変化を遂げたことから、近年では、時代の要請として都心居住や観光需要への対応が必須となった。このことで、旧来型のオフィスビルや低未利用地は、タワーマンションなどの集合住宅、また、規模の大小を問わずホテルなど、宿泊施設の立地が進んだ。

◎ところが、この構造変化に適応した地域コミュニティ醸成への方途はいまだその道筋のあり様を、必ずしも描ききれずにいる。

◎そこで、船場の中心にあたる御堂筋、さらにその御堂筋の語源ともなった「北御堂」に会場利用の協力を仰ぎ、新世代の表現や共感の場づくりを『アーティスティックな町場の場づくり』から考え、共に行動できる《北御堂芸術祭―あそべばアート》とすることとした。

【注】当初「船場芸術祭」と名乗ることを考えたが、場所の力をより強く表明し参加意欲を促す目的で事業名称は《北御堂芸術祭―あそべばアート》に決定した。



■活動実績

©2025 年 5 月 28 日 まち歩き 大阪デザイナー・アカデミー 学生 33 名参加



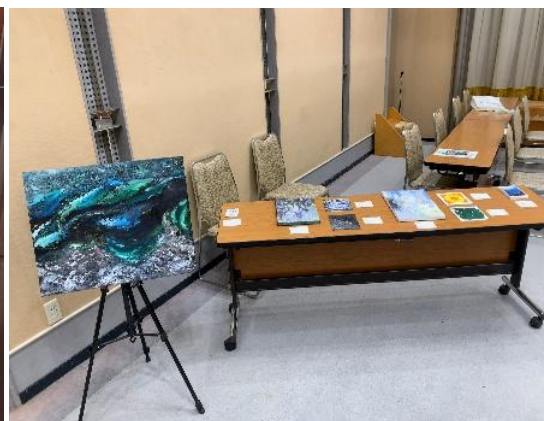
⇒まち歩きでの学びを 2026 年 3 月北御堂芸術祭にて作品展示

©2025 年 9 月 6 日 大阪的シンポジウム 112 名の参加



©2026 年 3 月 17 日～23 日 北御堂芸術祭—あそべばアート 約 2,000 人
・作品展示 (3 月 17 日～23 日)





・マルシェ (3月20日～22日)



・特別プログラム（3月22日）



■成果・効果

◎「北御堂芸術祭—あそべばアート」開催期間中はお彼岸と重なったこともあり、イベントを目的に来場された方だけでなく、従来から北御堂にお参りに来られている方々にもご参加いただくことができた。その結果、宗教施設としての北御堂に加え、「芸術や文化を通じて人が集い、交流する場」という新しい一面を、多様な来場者と共有することができた。

◎地域生活者の発意や主体によるアートとの触れ合いや出会いが、新しいコミュニティの「きっかけになり得ること」を、入館者への直接の聞き取りや反響から一定程度確認できた。

◎そのコミュニティ・ムーブメントで地域の共感呼び込み、さらに、共に「芸術祭を育てる」道筋を見つめ続けることが可能となれば、やがては次世代型の地域コミュニティが萌芽し、ひいては、魅力と質感のある地域の「種」が育つ。そのことを多くの人と共有できた。

■今後の展開

◎この度の初回・開催では、大阪市コミュニティ協会が主催者となり、会場提供していただいた北御堂をはじめとした、その他組織・団体には「協力」という位置付けで、緩やかにかかわっていただく体制を取った。

◎一方で、今回開催・成功の道筋では、その「協力」者の中に企画・運営面にも深く関わり、継続的な意見交換や調整を重ねることで、成功へと導いてきたことを忘れてはならない。こうした関与を単なる「協力」にとどめず、主体的な参画として位置付け直すことが重要である。

◎今後の意見聞き取りの中で意向把握を確実に行った上で、実行委員会形式での開催も検討し、多くの関係者がプレイヤーとして責任と役割を担い、「北御堂芸術祭」を共に企画・運営する体制を整えることで、「地域コミュニティ×アート」を核とした、次世代型の都心コミュニティ形成のモデルケースとして育てていく。